

# 果樹カメムシ類情報第1号

令和8年4月6日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 4～6月の気温が高いと予想されているため、 越冬個体が早期に活動を開始するおそれがあります

### 1 令和8年のチャバネアオカメムシ越冬成虫密度調査結果

果樹カメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシの越冬成虫密度調査を県内14地点で行った結果、平均越冬成虫密度は0.26頭/m<sup>2</sup>（過去10年の平均値0.64頭/m<sup>2</sup>、昨年0.69頭/m<sup>2</sup>）であり過去10年と比較してやや少なく、越冬成虫の確認地点割合は57.1%（過去10年の平均値60.7%、昨年71.4%）（表）となり、過去10年と比較して平年並でした。

### 2 令和8年の飛来数予測

チャバネアオカメムシの越冬成虫密度と、飛来数の目安となる予察灯における5～6月の誘殺数は関連しており、越冬成虫密度が高い年は誘殺数も多くなる傾向があります。今冬の越冬成虫密度はやや少なく、越冬成虫の確認地点割合は平年並でした。また、令和7年8～10月までの予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺総数は平年並でした。これらのことから、チャバネアオカメムシの果樹園への飛来数は6月末まで平年並と予測します。

しかし、ツヤアオカメムシの令和7年8～10月までの予察灯における誘殺総数は、過去10年と比較して3番目とやや多く、越冬量が多い可能性があり（越冬量の平年値データ無し）今後の発生に注意が必要です。

4月2日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されています。果樹カメムシ類の活動開始が例年より早まることが考えられます。ほ場での発生状況をよく観察し、フェロモントラップ（4月開始）及び果樹カメムシ類の予察灯（5月開始）における誘殺数などを参考にして、防除を実施しましょう

表 令和8年（1～2月採取）のチャバネアオカメムシ越冬成虫密度（頭/m<sup>2</sup>）

調査年	調査地点														全地点の 平均	越冬確認 地点割合
	幸田町		新城市				豊橋市				豊川市					
	須美 北山北	須美 北山東	大海	市川	小畑	稲木	嵩山	石巻 萩平	石巻 平野	小野田	平尾	千両	足山田	金沢		
令和8年	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.7	0.3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.3	1.0	0.0	0.26	57.1%
平年	0.3	0.2	1.6	0.9	0.7	0.5	0.7	0.7	0.9	0.2	0.2	0.4	1.1	0.7	0.64	60.7%

（参考）

調査年	調査地点		
	豊田市		
	舞木	猿投	西中山
令和8年	0.0	0.0	0.7
令和3～7年平均	0.3	0.9	1.1

平年：平成28年から令和7年までの過去10年の平均値。

全地点の平均及び越冬確認地点割合は幸田町、新城市、豊橋市、豊川市の結果を基に算出した。

豊田市における調査は令和3年から実施。